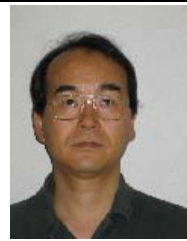

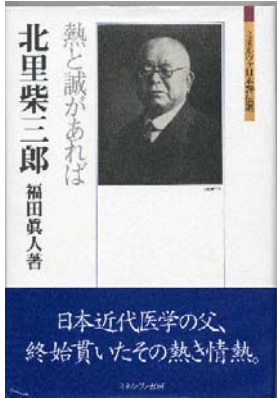


**研究者総覧：福田 眞人 (FUKUDA, Mahito)**

氏名	福田 眞人 (FUKUDA, Mahito)	
職名	教授	
所属講座	日本語文化専攻日本語文化学講座	
学位（専攻分野）	学術博士（比較文学比較文化）・東京大学	
メールアドレス	<a href="mailto:fukuda@nagoya-u.jp">fukuda@nagoya-u.jp</a>	
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~mfukuda/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~mfukuda/</a>	
研究分野	比較文化史	
	医学史	
	19世紀日英比較文化研究	
現在の研究テーマ	水の文化史および梅毒の比較文化史研究	
所属学会	国際比較文学会／日本比較文学会	
	Society for the Social History of Medicine	
	明治美術研究学会	
主要著書・論文	『病院と病気』（編著、ゆまに書房、コレクション・モダン都市文化55、2009年）	
	『北里柴三郎——熱と誠があれば』（ミネルヴァ書房、ミネルヴァ日本評伝選、2008年）	
	『日本梅毒史の研究——医療・社会・国家』（共編、思文閣出版、2005年）	
	『結核という文化——病の比較文化史』（中央公論新社、中公新書2001年）	
	『結核の文化史：近代日本における病のイメージ』（名古屋大学出版会、1995年）毎日出版文化賞受賞	
自己紹介文	<p>比較文学比較文化的研究の中で、特に19世紀の日本と英国における医学、病気、医療、衛生、社会政策に興味を持っている。</p> <p>とりわけ、結核（労咳、肺病）が、東洋と西洋でまったく地理的にも文化的にもかけ離れているにも拘わらず、美しい病気（佳人薄命）、天才の病気（天才創造的人物像）と考えられるに至った過程を研究してきた。日本のみならず、英国、米国、フランス、スペイン、ベルギー、ドイツ、中国、台湾、韓国</p>	 <p>第49回 毎日出版文化賞受賞</p> <p>毎日出版文化賞受賞</p>

	<p>などの国の研究者と合同で結核研究会を持ち、意見を交換してきた。</p> <p>また明治日本とヴィクトリア朝英国における諸文化事象全体にも興味を持ち、例えば自立(self-help)の社会的運動、衛生観念の成立、軍隊と性病の文化史、風呂とトイレの文化史的研究、指紋の文化史的研究、表象の方法論、文学における母親像などのテーマを追究してきた。いずれも、医学、文化、社会、経済などと無関係には述べられない事象で、まさにその意味で学際的研究(interdisciplinary)であると言えるだろう。</p> <p>旧来、当然と思われてきた事象や、考察の対象になっていなかった事物に取り組んでいくこととしたい。それを括る分野として『文化史的研究』というのが、あるいはもっとも相応しいのかも知れない。目下は、水の歴史的文化的考察をテーマとする。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>幅広い教養を求めることはもとより、自分で定めたテーマに広く深く追究する姿勢を大切にしたい。研究は、時間がかかる。時に不安になる事もあるだろう。しかし、その努力のどの局面も、いずれ役に立つ。決して諦めてはならない。楽観主義と、体力、持久力が勝負になる。</p> <p>歴史上の人物で細菌学者の、北里柴三郎(1852-1931)を見てみよう。彼は、異国ドイツで師コッホ(Robert Koch, 1843-1910)の下でこつこつと実験を続け、ついに破傷風菌の純粋培養に成功し、その毒素を証明した。誰にも不可能と言われていたことに挑戦し、実験器具一つひとつから自ら洗浄してついにこの偉業を成し遂げたのである。あるいはそこで気の遠くなるような孤独な実験が続いたのではなかったか。それに耐える精神と体力を北里は持っていたと言える。</p> <p>信義を守ることや礼節を持つ事は人生の大事だが、不屈の精神と興味を飽くまでも追究するどん亀のような性質が最も求められるだろう。誰かがどこかで見ていてくれるものです。世の中は不思議でいっぱいですよ。そう思うと、研究も人生も楽しくなってくるでしょう。</p> <p>佳き先生(師)に巡り会うのも、また佳き友人(朋)に会うのも楽しみですね。子曰學而時習之、不亦説乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。人不知而不愠、不亦君子乎。どうぞ生涯の友を見出してください</p>



ミネルヴァ日本評伝選

	い。
--	----